



Ambitious

令和4年6月8日
尾道市立高西中学校
研究推進部

先日（6月2日）の研究授業，本当にお疲れさまでした。今回の研究授業に精力的に取り組み，準備をしてくださった脇川先生，若宮先生，佐藤先生，そして多様な意見を出して下さったみなさまのおかげで，今回の研究授業も実りのあるものとなりました。ここで得た学びを次につなげるため，要点をまとめます。

生徒の主体的な取組を促すために～課題設定の工夫～

それぞれの授業において，学習活動に主体的に取り組ませるための工夫が随所に見られました。

1年生の数学の授業では，課題設定を工夫されていました。「1年D組の立ち幅跳びの記録から，男女それぞれ10名の平均を求めよう」と生徒にとって身近な課題を設定し，それを解決するための手段として，既習の相加平均を用いる方法だけでなく，新出事項である「負の数」を用いる方法の有用性気づかせていました。

2年生の技術の授業では，身近にある懐中電灯を最初に例示し，その仕組みを解明しようとする事で，生徒の学習意欲を高めていました。授業後半に生徒から，「こんなに近くにあるものだけど，なんで電気がついているのか説明が難しい」という旨の発言が見られ，「もっと探求してみたい」という次の学習への意欲の高まりが見られました。

2年生の理科の授業では，授業冒頭で「二酸化炭素の中で物質は燃えないはずなのに，それが通用しないのはどうしてだろう」と疑問を投げかけることで，生徒達の既存知識に疑問を抱かせていました。これにより，マグネシウムの酸化と，二酸化炭素の還元を原子モデルや化学反応式で記述させることへの動機付けを行いました。



1-D 数学



2-D 技術



2-C 理科

各教科における授業づくりの工夫共有

各グループ内で，日々の授業の中で行っている工夫の交流を行いましたので記述・共有します。

- 話し合いの型を作成し，3年間を通して使える表現集の作成【英語】
- 集中する場面と発散する場面の繰り返し【英語】→個人で問題に取り組む時間とペアワーク等で共有する時間を50分の中で複数回設ける
- 入試問題の掲示（教科書とは異なる問題を用いて練習）【数学】
- 個別のミス全体へ広げる【数学】
- グラフの読み取りや計算等間違いやすい箇所を全体で共有する
- 生徒用シラバスの作成及び各授業における評価基準の明示化【数学】
- テスト後PDCAサイクルの表を作らせる
(生徒が自身の学習状況をメタ認知できるようにする)【国語】
- 小グループの活用【家庭科】→答えがない問いに対しても積極的に発言をさせる
- 素振り等の体の動きの感覚から新たな学びを得させる【保健体育】

【校長先生のお話より】

学ぶことに興味や関心を持ち
自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら
見通しを持って**粘り強く**取り組み
自己の学習活動を**振り返って**
次につなげる 「主体的な学びが実現できているか」

主体的な学びとは
指示されてやる学習ではない！
授業の中にひとつでよいので
1回自己選択させる場面を入れよう！

1年 数学 題材名「数の世界を広げよう（正負の数）」 脇川教諭

	成果	課題と改善策
生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって身近な題材を用いて課題を設定していた。 ・振り返りの視点をきちんと明示していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を高める課題の設定 →「課題を解決したい」という気持ちを起こさせるような課題を生徒目線に立ち考案する。 ・生徒が行う振り返りと本時のめあてとの間にズレがあった。
見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや図等を掲示するなどして視覚支援を有効に行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 →電子黒板やクロムブックを活用することにより、生徒に示すグラフや図の種類を増やす。
対話的な学びを実現し、表現力を育成する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・計算方法を言語化して交流させていた。 ・学ぶべき課題に対して、「なぜだろう」という疑問を抱かせ、課題解決への筋道を示していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の高い生徒への対応 →追加プリントを用意するなどして、暇な時間を作らないようにする。

2年 技術 題材名「エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み」：若宮教諭

	成果	課題と改善策
生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT（電子黒板）を効果的に活用していた。 ・電気回路図を書く必然性がきちんと設定されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の活用 →授業のユニバーサルデザインの視点を踏まえ、重要な箇所を黒板に板書することで、50分間重要な情報が残り続ける。
見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言を拾い、そこから発問を行う場面が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考時間を確保 →教え込む時間を短くし、その分生徒自身に考えさせる時間を増やす。
対話的な学びを実現し、表現力を育成する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いを恐れず発言や発表をしている生徒が多数おり、「対話的な学び」が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にし、理由をもって説明できる課題設定 →様々な選択肢の中から正誤等を予想させることにより、発展学習へつながる。

2年 理科 題材名「化学変化と原子・分子」：佐藤教諭

	成果	課題と改善策
生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器を例に出す等、日常生活と関連のある課題設定を行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時間が長く、生徒の思考時間が削られていた。
見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル図などの思考ツールを効果的に使用させることにより、個人での思考や集団での話し合いが滞りなく行われるようにしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の手順の詳細説明 →実験内容が難しく、理解できていない生徒がいたため、生徒が繰り返し見れる動画を作成しておく等して、生徒に確実に落とし込む。
対話的な学びを実現し、表現力を育成する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールティーチャー制度ができており、教え合いの場面が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの場面での教師の説明量 →説明量を減らし、生徒自身にまとめの文章を考えさせる。